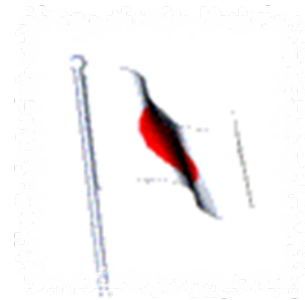


# まちづくり・地域興し論

2009年 10月27日 第3講



観光意欲を促進する国、地域の特徴

第三章 日本は魅力的か？

第四章 必要なソフトパワーの強化

# 第1章 官民あげて観光振興へ

## 2. 観光振興 4つの背景

- **大交流時代の到来**

外国人旅行者受け入れ数(8億628万人・前年比5%増)(WTO)統計。中国などのアジア諸国が一大送り出し国。

- **地方分権化での地域経済の再生と活性化**

今までの地域振興策は公共事業や工場誘致によって地域の経済を活性化し、雇用確保すること(人口の維持・増加策に着目した地域振興策)。

しかし、政府の財政難から来る公共事業の疲弊や人口減少・高齢化を考えると定住人口だけでなく      人口の拡大に真剣と取り組む必要がある。

- **国内旅行の低迷**

- バブル経済崩壊後の      所得減少や将来不安による個人消費の抑制
- 相対的に割安な海外旅行へのシフト
- 団体旅行からグループ旅行へ

- **観光の経済の      効果**

観光は極めて裾野の広い産業。地域活性化効果。

# 第2章 今なぜ観光振興なのか

## 2. 地域経済の再生と活性化

### 1. キーワードは「多様性」と「個性」

- 全国画一型から  
地域資源活用型へ
- ハコもの観光施設やリゾートマンションの建設ラッシュ
  - 1962年 新産業都市(15地域)
  - 1983年 テクノポリス法(高度技術工業集積地域開発促進法)(26地域)
  - 1987年 リゾート法(総合保養地域整備法)
- 2000年 地方分権一括法施行
- 小泉内閣時代の税財政改革「三位一体の改革」
  - 国庫補助負担金の削減
  - 税源の移譲
  - 地方交付税の見直し
- 2006年 地方分権改革推進法
- 地域の特色を作り出すような新興手法への転換
- 固有の自然や歴史・文化、産業等を活かした地域資源活用型の地域振興

# 第2章 今なぜ観光振興なのか

## 2. 地域経済の再生と活性化

### 2. 地域を襲う人口減・高齢化と財政難

年	総人口(人)	高齢人口比率 (%) (65歳以上)
2005	1億2,777万	20.2
2013	1億2,625万	25.2
2050	9,515万	39.6
2055	8.993万	40.5

日本人の4  
人に一人が  
65歳以上

(出典: 国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の将来推計人口」による)

日本の人口が減少基調に転じることにより、特に地方において、過疎化と高齢化が一層加速する恐れが強い。

# 第2章 今なぜ観光振興なのか

## 2. 地域経済の再生と活性化

### 1. 政府・自治体の財政難

表8 国及び地方の長期債務残高（単位：兆円）

	1995年末 (実績)	2005年末 (実績)	2006年末 (補正後)	2007年末 (予算)
国	297程度	590程度	600程度	607程度
地方	125程度	201程度	201程度	199程度
国と地方の重複分	△12程度	△34程度	△34程度	△33程度
国・地方合計	410程度	758程度	767程度	773程度
対GDP比	82.6%	150.6%	150.2%	148.1%

# 第2章 今なぜ観光振興なのか

## 2. 地域経済の再生と活性化

### 1. 政府・自治体の財政難

- 人口1万2千人
- 2007年3月 632億円の負債を抱え財政再建団体に指定された。
- 1980年 「炭鉱から観光へ」
  - 石炭業で栄えた町（人口・・・1960年11万7千人）
  - 「夕張メロン」のブランド化
  - ゆうばり国際ファンタスティック映画祭
  - 30施設に及ぶハコもの施設（石炭博物館・夕張鹿鳴館・メロン城・レーススイスキー場）



表9 夕張市の観光客数推移

	1991年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
観光客数 (万人)	231	160	152	147	116



どのくらいの  
日本人が沖縄に  
まだ着たことがな  
いの？

# 第2章 いま、なぜ観光振興なのか

## 3. 回復が待たれる国内旅行

### 1. 低迷する国内旅行

表10 宿泊観光旅行(国内)の実態調査

出典: 日本観光協会 「観光の実態と志向(第25回)2006年12月

年度	参加率 (%)	参加回数 (回)	平均宿泊数	1回あたり総費用(円)
2002	52.2	1.25	1.56	39,200
2003	52.5	1.17	1.56	40,840
2004	48.4	1.03	1.54	39,780
2005	49.2	1.08	1.60	39,160
過去のピーク	60.2 (1994年)	1.43 (1994年)	2.20 (1970年)	48,100 (1990年)

- アメリカ 年間11.7泊(3.4回×3.5泊) (2005)
- イギリス 17.6泊 (2.8回×6.4泊) (2005)

一回当たり総費用

- 3万9160円(2005)
- 4万8100円(1990)



# 第2章 いま、なぜ観光振興なのか

## 3. 回復が待たれる国内旅行

### 2. 変わる顧客ニーズにいかに対応するか？

#### 供給サイド

- 有名観光地や温泉などを訪れる周遊型・物見遊山型の団体旅行



- 明確な目的をもった新しいタイプの旅行(体験型・滞在型・学習型)
  - 秘湯めぐり
  - フィルムツアー(ロケ地)
  - エコツアー(ガイド・Interpretation)
  - トレッキング



#### 需要サイド

- 労働者一人平均の有給休暇付与日数 17.9日
- 有給休暇取得数 8.4日 (47.1%) 2006年...過去最低
- 理由
  - 休暇の連続性のなさ
  - 盆・暮れ・ゴールデンウィーク等への極端な集中

## 第2章 いま、なぜ観光振興なのか

### 3. 回復が待たれる国内旅行

### 3. 国内旅行回復が観光振興の鍵

- 国内観光消費額 24兆4千億円

- 国民による国内旅行 22兆8千億円 (93.3%)
- 外国人旅行者による国内旅行 1兆6千億円 (6.7%)
  
- 国民による海外旅行 5兆1千億円

- 外国における自国民の旅行比率

- カナダ 30%
- イギリス 18.1%
- ドイツ 17%
- アメリカ 15.4%



# 4 旅行消費が我が国にもたらす経済波及効果

売上高から原材料等の購入額をひいたもの

## ◆ 観光消費額 23.5兆円 (GDPの約6%)

◆ 付加価値 11.9兆円 (GDPの2.3%)

◆ 直接の雇用効果 215万人 (全雇用の3.4%)

◆ 税収 2.0兆円 (全税収の2.2%)

□ 生産波及効果 52.9兆円 \* 1

□ 付加価値効果 28.3兆円 \* 2

□ 雇用効果 442万人 \* 3

□ 税収効果 5.0兆円 \* 4

一般機械製造業  
2.1%

輸送用機械製造業  
2.6%

食料品製造業  
2.7%

\*1 : 産業連関表国内生産額 949.1兆円に対応 (2000年)

\*2 : 国民経済計算における名目GDP 509.8兆円に対応 (2006年度)

\*3 : 国民経済計算における就業者数 6,404万人に対応 (2005年度)

\*4 : 国税+地方税89.0兆円に対応 (2006年度)

\*5 : ここで言う貢献度とは全産業に占める比率

旅行消費額 23.5兆円 (国内産業への直接効果 22.9兆円)  
波及効果



# 日本を旅してみたい？



# 第3章 日本は魅力的か

## 1-1 国別国際会議件数 (単位: 件、カッコ内は順位)

総数  
8,950万件

国名	2003年		2004年		2005年	
アメリカ	(1)	1,241	(1)	1,207	(1)	1,039
フランス	(2)	723	(2)	606	(2)	590
ドイツ	(3)	535	(3)	538	(3)	410
イギリス	(5)	482	(4)	424	(4)	386
イタリア	(4)	512	(5)	400	(5)	382
中国*	(20)	135	(11)	249	(11)	216
韓国	(32)	87	(17)	165	(14)	185
シンガポール	(23)	125	(20)	156	(15)	177
日本	(12)	247	(14)	221	(17)	168

\*香港・マカオを含む (出典: 国際観光振興機構『国際観光白書』 2007年)

# 第3章 日本は魅力的か

総数  
8,950万件

## 1-2. 都市別・国際会議開催件数(カッコ内は順位)

都市名	2003年		2004年		2005年	
パリ	(1)	303	(1)	245	(1)	294
ウィーン	(4)	199	(3)	224	(2)	245
ブリュッセル	(2)	225	(2)	226	(3)	189
シンガポール	(8)	125	(5)	156	(4)	177
バルセロナ	(7)	133	(6)	147	(5)	162
ソウル	(28)	54	(11)	108	(9)	103
北京	(37)	44	(15)	94	(18)	82
東京	(28)	54	(33)	49	(25)	56



# 第3章 日本は魅力的か

## 2. (表3) 主要国の留学生受入れ状況

国名	留学生受け入れ数(万人)	留学生比率(%)
アメリカ	56.6	5.5
イギリス	35.6	24.9
ドイツ	24.8	12.3
フランス	26.5	11.9
オーストラリア	22.9	24.2
日本	11.8	3.3

留学生総数  
270万人

(出典: 文部科学省 「我が国の留学生制度の概要」 2007年度版)



# 第3章 日本は魅力的か

## 2. 留学生受け入れ数

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
留学生数 [万人)	9.6	11.0	11.7	12.2	11.8





# 第4章 必要なソフトパワーの強化

## 1. ソフトパワーとは何か？

ジョセフ・ナイ教授（1980年代）



**ハードパワー**・・・経済力や軍事力。相手に影響力を及ぼす伝統的な国力。

**ソフトパワー**・・・自らの魅力によって相手を取りこんでしまう新しい国力。





# 第4章 必要なソフトパワーの強化

## 2. ライバルは世界の観光地

1. 世界遺産

2. 世界無形文化遺産

3. 素材のままの観光資源

## 3. 観光客が望む日常の生活文化体験

ホテル・レストラン・原宿や竹下通り・浅草や  
電気街・アニメなどの秋葉原・食の築地市場



# 本日のグループ課題



## 観光振興の本質は魅力づくり

国際化の進展で、国内外を問わず、ボーダーレス化が進んでいる。このため、日本国内の観光地は、今や海外の一流観光地などと正面から競合する時代を迎えている。配布されたプリントと教科書(第4章 必要なソフトパワーの強化)を読んで下記のことについて話し合ってください。

- ①競合していると思われる日本の観光地と外国の観光地。
- ②この2つの観光地がどのように競合しているか？それぞれの観光地の特徴と違いを述べて説明する。
- ③この2つのうちで、日本の観光地をもっと魅力的にするにはどうしたらよいか

■ ■ ■

